

2023年10月16日(月)

報道関係者各位

オリザ油化株式会社

オリザ油化のフコキサンチンを用いた 抗がん研究が論文になりました。

オリザ油化株式会社(本社:愛知県一宮市、代表取締役:村井弘道、以下「オリザ油化」)が2008年9月から販売する「フコキサンチン」を用いた抗がん研究が北海道医療大学薬学部の寺崎 将 准教授の研究チームによって実施され、このたび科学論文にて発表されました!

論文化された研究は、当社の「フコキサンチン-5KW (5%品)」をすい臓がん患者から腫瘍を移植したマウスに継続投与した際の抗がん作用を評価したものです。研究の結果、以下のフコキサンチン投与による効果が確認されました。

- ✓ 腫瘍の成長抑制、分化誘導^{※1}が確認された。
- ✓ 腫瘍細胞増殖の阻害因子^{※2}の発現増加が確認された。
- ✓ 腫瘍悪性化因子^{※3}の発現抑制が確認され、これらの因子に関連するシグナルの阻害が腫瘍抑制に重要な役割を果たしていることが示唆された。

また、上記の動物実験結果を支持する結果が、すい臓がん由来細胞を用いた実験で得られました。

これらの結果より、フコキサンチンはすい臓がん患者の治療に効果を示す可能性が示され、がん治療薬の有力な候補となりうる事が明らかになりました。

オリザ油化では、このたびの当社の「フコキサンチン」を用いた研究の論文化を受けて、「フコキサンチン」に秘められたポテンシャルや科学エビデンスの豊富さを改めて再確認し、今後も引き続き「フコキサンチン」を通じた人々の健康への寄与に邁進していく所存です。

■論文情報

Terasaki M, Suzuki S, Tanaka T, Maeda H, Shibata M, Miyashita K, Kuramitsu Y, Hamada J, Ohta T, Yagishita S, et al. Anticancer Effects of Fucoxanthin in a PDX Model of Advanced Stage Pancreatic Cancer with Alteration of Several Multifunctional Molecules. *Onco*. 2023; 3(4):217-236.
<https://doi.org/10.3390/onco3040016>

■補足・解説

- ※1 腫瘍の分化誘導: 一般的に分化度合いが高いほど良性腫瘍とされる。
- ※2 腫瘍細胞増殖阻害因子: デコリン (プロテオグリカン), リン酸化 p38(Thr¹⁸⁰/Tyr¹⁸²), JNK(Thr¹⁸³/Tyr¹⁸⁵)
- ※3 腫瘍悪性化因子: インスリン様増殖因子結合タンパク (IGFBP2), 上皮細胞接着分子(EpCAM), 好中球ゼラチナーゼ結合性リポカイン (LCN2)

— オリザ油化のフコキサンチンについて —

◆豊富なラインナップ！

オリザ油化では、海藻（コンブ、ワカメ）由来の「フコキサンチン-KW」と微細藻類由来の「フコレックス® (FucoRex®)」の2シリーズを販売しています。また、フコキサンチン含量の異なる番手や粉末、油溶性液体などの様々な剤型を用意し、お客様のニーズに合わせた販売が可能です。また、化粧品向けのラインナップも用意しております。

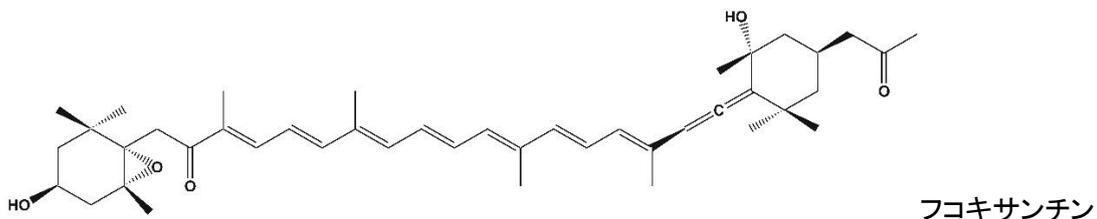
◆多様な機能性！

オリザ油化の「フコキサンチン」には、褐色脂肪細胞中の UCP-1 活性を増加させることによる抗肥満作用があることが明らかになっており、臨床試験でも内臓脂肪に選択的な抗肥満作用が確認されました。さらに、自社研究によって美白作用、抗糖化作用、抗酸化作用および抗ニキビ作用があることも明らかにしています。

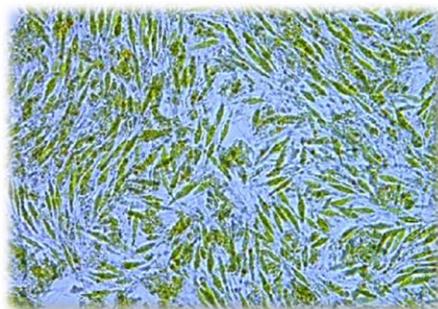
◆機能性表示食品にも対応！

オリザ油化の「フコキサンチン」は、機能性表示食品にも対応しております。関与成分のフコキサンチンを1日当たり3 mg（フコキサンチン-5KW で 60 mg/日、フコレックス®-3 で 100 mg/日）摂取していただくことで以下のヘルスクレームが表示可能です。

「フコキサンチンは肥満気味の方のおなかの脂肪（内臓脂肪）や体重の減少をサポートし、高めの BMI を低下させる機能が報告されています。」



フコキサンチン-KW 原料:海藻



フコレックス®原料:微細藻類